

Cut No.	PICTURE	DIALOGUE & SOUND
C 01		
C 02		【事例】関西の取引先との会話 上司と部下で関西に出張に来ている 上司 「どうも初めまして。コトバ商事のゴトウと申します。 本日はよろしくお願いいたします。」 部下 「よろしくお願いいたします。」
C 03		関西の取引先の社員 「今日は何を使って来はったんですか？」
C 04		上司 「新幹線で来ました。 「来はった」っていいですね。 私は余りなじみがありませんが、 関西に来たって感じがしますね。あはは・・・」
C 05		部下（心の声） 「「来はった」って、なんかなれなれしく聞こえるけど そんなことないのかな？ 関西では普通に使う言葉なのかなあ？」
C 06		関西の取引先の社員 「どうしはりました？（関西イントネーションで）」
C 07		部下 「いえいえ、なんでもないです。」 （納得してなさそうな感じ）」
C 08		関西の取引先の社員 「ほな、早速弊社を御案内いたしますね。」 （関西イントネーションで）」

Cut No.	PICTURE	DIALOGUE & SOUND
C 09		【解説】 「ナビゲーター」 いかがですか？ 近畿地方の方言を敬語だと受け取れなかったようです。 方言には、その地域に特有の敬語の使い方、方言敬語があります。
C 10		ここで表現されている「しはる」「来はる」は、近畿地方の方言で「する」「来る」の尊敬語に当たります。
C 11		したがって「何を使って来はったんですか。」は、全国共通語の「何を使ってこられたんですか。」のような意味になります。
C 12		しかし「来はる」は、尊敬語でありながら、全国共通語に簡単に言い換えられない表現です。
C 13		例えば「どちらから来はったんですか。」は、近畿地方の人にとっては「どちらからいらっしゃったんですか。」という表現ほど改まりもせず、かといって「どこから来たん(=どこから来たの)。」ほどくだけ過ぎてもない、
C 14		適度な親近感を持ちながら、相手を立てる表現と見なされています。
C 15		他にも近畿地方の方言では、 「行く」の尊敬語として「行かはる(行きはる)」 「食べる」の尊敬語として「食べはる」 といった言い方をします。
C 16		【解説】 各地の方言敬語は、それぞれの地域社会において、全国共通の敬語では表現しにくい人間関係や気持ちを表すといった、掛け替えのない働きをしています。 そうした方言敬語が改まった場面でも用いられるのは自然なことです。

Cut No.	PICTURE	DIALOGUE & SOUND
C 17		【解説】 大切なのは、方言敬語と全国共通の敬語とを、適切に使い分けようとする姿勢です。
C 18		一方で、全国共通の敬語とは異なる敬語が方言にあることを知り、互いに寛容な意識を持つことも大切です。
C 19		方言敬語は、全国共通の敬語とともに、地域社会の多様な言語生活に欠かせないものであり、
C 20		将来にわたって大切にしていけることが望まれます。